

ESA でユーザが LDAP とローカルに存在すると、外部認証でログインできない

目次

[概要](#)

[問題](#)

[解決策](#)

概要

この資料は外部認証が E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) で有効になるとき AsyncOS の動作を記述したものです。

問題

ESA は Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) によって外部認証を使用するために設定することができます。また ESA で設定されるローカルアカウントがあるユーザは GUI および CLI にログインすることができません。

解決策

外部ユーザ認証が有効になる場合、ESA は ESA に接続することを試みるユーザを見つけるために両方の認証方式を使用します。最初にアプライアンスは外部 LDAPサーバによってユーザを認証することを試みます。

注: 管理者 アカウントはローカルでただ利用できます。

2 つの可能なシナリオは次のとおりです:

- ESA を管理することができる LDAP データベースで存在しているユーザはまたグループに割り当てられ、アクセスは認められます。
- LDAP データベースで存在しているユーザはユーザ向けに ESA グループをの何れかに管理すること、アクセス許可されません。これはまたそのユーザ向けに利用可能なローカルプロファイルの場合には適用します。

ユーザが LDAPサーバで存在しなければローカルユーザ ユーザー一覧は認証のために使用されます。